



財団創立85周年記念 特別展 Special Exhibition Celebrating the 85th Anniversary of Founding the Nezu Museum

かきつばたず ふじはなす なつあきけいりゅうず
国宝・燕子花図と藤花図、夏秋溪流図
光琳・応挙・其一をめぐる3章

The Kōrin, Ōkyo, and Kiitsu Trio: Masterpieces of Screen Painting

現在、根津美術館が所蔵する国宝・重要文化財あわせて100件のうち、日本近世の絵画は3件のみ。尾形光琳の国宝「燕子花図屏風」と、円山応挙「藤花図屏風」、鈴木其一「夏秋溪流図屏風」の2点の重要文化財です。数は少ないながら、いずれも6曲1双の金屏風であり、全コレクションにおいて、文字どおり輝きを放っています。

工芸デザイナーでもあった光琳、写生画派の祖である応挙、江戸琳派の異才・其一。これらの屏風はいずれも、それぞれの画家の個性が最大限に発揮された代表作であるのはいまでもありませんが、同時に、制作された時代や場所を違えながら、相互に画風的なつながりも有しています。ともに無背景の総金地に草花や花木を描く光琳と応挙。また其一の作品は、律動的なモチーフの配置の点で光琳の、写実性を備えた描写の点で応挙の影響が見て取れます。

本展は、こうした3件の屏風を中心に据えた3章構成とし、各々の真価を際立たせる、あるいはその魅力をさらに高める作品ととりあわせて、ご堪能いただきます。

2025年 4月12日(土)～5月11日(日) 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>



燕子花図屏風の章

宗達派の屏風に学んだもの — 幾何学的な構図、左右の対照と均衡



国宝 燕子花図屏風
尾形光琳筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 18世紀

総金地に濃淡の群青と緑青のみにより描きだされた燕子花の群生。左右隻の対照と均衡を図りつつ、燕子花をリズムカルに配置する意匠的構図が圧倒的である。尾形光琳（1658～1716）が生み出した日本絵画史を代表する一点。



重要美術品
桜下蹴鞠図屏風
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 17世紀

桜の幹と人物が上下方向の運動感を生む右隻と、垣根の斜線や水際の曲線で画面を大胆に画し、下辺に人物を集めた左隻の構図の対照が見所。飄逸にして雅な人物表現は、本作品が俵屋宗達の工房で制作されたことを示す。

藤花図屏風の章

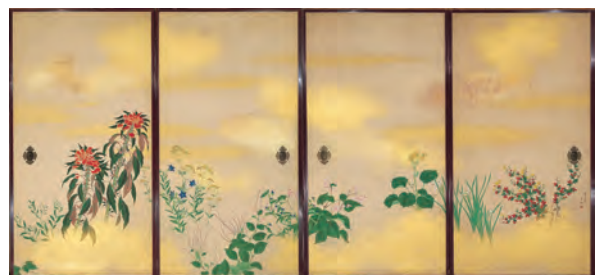
弟子たちの作品と比較すると一層わかる応挙の「写生画」の革新性



重要文化財
藤花図屏風
円山応挙筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 安永5年（1776）

幹や枝は「付立て」で「一見ラフに描かれながら、墨の濃淡が立体感を表す。一方、白と青、紫の絵具を重ね合わせた花房の表現は、まるで西欧的印象派のよう。単なるリアルと異なる円山応挙（1733～95）の「写生画」の真骨頂。

現状は4面の襖に春から秋にかけての草花が描かれている。筆者の山口素綯（1759～1818）は円山応挙の高弟。濃彩を用い、対象の特徴を克明に描き出そうとする態度が見て取れる。



重要美術品 草花図襖 山口素綯筆
4面 紙本着色 日本・江戸時代 文化10年（1813）

夏秋溪流図屏風の章

近世の個性的な水墨画作品と拮抗するエキセントリックな造形



重要文化財
なつあきけいりゅうびょうぶ
夏秋溪流図屏風
すずき きいづ
鈴木其一筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 19世紀

溪流が流れる^{ひのき}檜の林。右隻は白い山百合の咲く夏、左隻は桜の葉が赤く色づく秋である。ねっとりした溪流の表現や、岩や幹にいまも増殖を続けているかのような点苔など異様な描写が充満する。鈴木其一（1796～1858）の代表作。

メリハリの効いた水墨と、劇画的とも言える表現が目を引く鷲と鷹。筆者の曾我宗庵は不詳ながら、その名から桃山時代に始まる鷹図を得意とした流派・曾我派の画家かと思われる。



わたしかずびょうぶ そがそうあん
鷲鷹図屏風 曾我宗庵筆
2曲1隻 紙本墨画
日本・江戸時代 17～18世紀

同時開催

展示室5 女面の魅力
一能「杜若」に寄せて—

年齢や性格を表すために様々な工夫が凝らされた女役の面の世界をご紹介します。季節にあわせて能「杜若」を思わせる装束とともに楽しみください。



まごじろう
孫次郎
朱漆銘「出目洞水」
木胎着色
日本・江戸時代
享保8年（1723）

顰長けた女性美を感じさせる女面。孫次郎の名の由来は、金剛座の太夫・金剛孫次郎が亡くなった妻の顔を映して彫り上げたという逸話による。

展示室6 若葉どきの茶

初夏、若葉の美しい時期、茶の湯では道具は夏向きに変わります。さわやかなこの季節にふさわしい茶道具約20件を取り合せます。



小井戸茶碗 銘「忘水」
1口
朝鮮半島・朝鮮時代 16世紀

明るい枇杷色^{びわ}が美しい井戸茶碗。銘「忘水」は、人知れず細々と流れる水のことで、古来、燕子花の名所であった大阪・住吉の浅沢小野が和歌に詠まれる。

●スライドレクチャー

担当学芸員がスライドで解説します。

- ・4月18日(金) 11時30分～12時15分
- ・4月25日(金) 11時30分～12時15分
- ・5月8日(木) 17時30分～18時15分 (19時まで夜間開館中)

会場：根津美術館 講堂

※ 当館ホームページから参加をお申し込みください。美術館入館料が必要です。
各レクチャーは同内容です。

展示替え

展示室3 仏教美術の魅力—中国の小金銅仏—

銅を用いて造られた小型の金銅仏は、仏教の伝播に伴い盛んに造像されました。このたびは、中国・北魏から唐時代に造られた小金銅仏をご覧ください。



重要文化財
しゃか たほうにぶつびょうざう
釈迦多宝二仏並坐像
銅造鍍金
中国・北魏時代 太和13年(489)

展示室4 古代中国の青銅器—青銅鏡展示 [巳のすがた]

中国古代の鏡には、巳は独立した文様としては見られませんが、十二支のひとつとしては堂々と描かれています。くると大きな目をした蛇(巳)は愛らしく、疾駆している他の動物とは対照的に丸まっています。



ほうかくしじゅうじゅうにしもんきょう
方格四獣十二支文鏡
青銅
中国・唐時代 7世紀
村上英二氏寄贈

※本リリース掲載作品は、すべて根津美術館蔵

その他の情報

夜間開館

5月5日(月・祝)から
5月11日(日)は
午後7時まで開館。
(入館は閉館30分前まで)
*5月7日(水)は休館



©藤塚光政



庭園のカキツバタ

作品の鑑賞とともに、カキツバタの咲く庭園の散策もお楽しみください。
(例年4月中旬から5月上旬にかけて開花します。)

※最新状況、追加の催事については、当館ウェブサイトでご案内いたします。

開催概要

展覧会名 特別展 国宝・燕子花図と藤花図、夏秋溪流図—光琳・応挙・其一をめぐる3章—

日時指定予約制

スムーズなご入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。(招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。)

主催 根津美術館

開催期間 2025年4月12日〔土〕～5月11日〔日〕

開館時間 午前10時～午後5時

※ただし、5月5日〔月・祝〕～11日〔日〕(5月7日〔水〕休館)は午後7時まで開館。入館はいずれも閉館30分前まで。

休館日 毎週月曜日

※ただし、4月28日〔月〕、5月5日〔月・祝〕、6日〔振替休〕は開館し、5月7日〔水〕休館。

入館料 オンライン日時指定予約 一般 1500円(1300円) 学生 1200円(1000円)

・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。

・当日券(一般1600円、学生1300円)も販売しております。

(ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方はお待ちいただくことがあります。

混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。)

・2025年4月8日〔火〕午後1時より当館ホームページで予約を受け付ける予定です。

・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレータ)より徒歩10分、B3出口(エレベータまたはエスカレータ)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

お問合せ Tel. 03-3400-2536 (代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

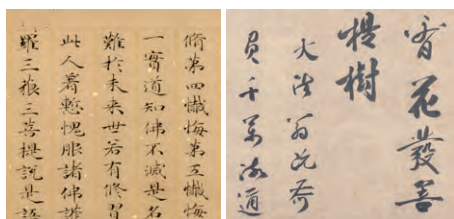
広報・取材の
お問合せ 学芸部 広報課 所/村岡
Tel. 03-3400-2538 (直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。(press@nezu-muse.or.jp)

次回展 企画展「はじめての古美術鑑賞—写経と墨蹟—」

2025年5月31日〔土〕～7月6日〔日〕

仏教経典を書写した写経と禅僧の書である墨蹟をご紹介します。これらの名品はなぜ重要なのでしょうか？その魅力を探ります。



左：国宝 観普賢經 日本・平安時代 11世紀

右：重要文化財 無学祖元墨蹟 附衣偈断簡 日本・鎌倉時代 弘安3年(1280)
いずれも部分・根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2025.2)